

通信教育部建築学科（令和3年度前期）

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03395 防災と建築	<p>建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価 レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。 また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03386 建築デザイン論	<p>近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。 達成目標は、 (1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価 レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。 また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03379 設備計画学	<p>給排水衛生・防災設備、空気調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートする。 建築においてデザインや構造といったように決して華やかな分野ではないが、建築においてなくてはならないものである上、デザインや構造を決定付ける非常に重要な要素である。こうした設備を学ぶことで、より建築への見方、考え方が広がる。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価 レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国のサステイナブル建築・コンバージョン施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>

<p>03351 建築造形 A</p>	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。 それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がいる。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。 この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>一人一人に丁寧ヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらうように努めている。 受講生に不合格者が居ない。</p>	<p>授業評価 製作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの掲示、アイデアを導くでいしゅカッションの増加に努める</p>
<p>03354 建築設計 I - a</p>	<p>住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。 この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。 高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。 この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に出向いて指導している。 受講生に不合格者はいない。 3日間で、学力が伸びていることを実感する。</p>	<p>授業評価 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する</p>
<p>03356 建築設計 II - a</p>	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。 企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>最終成果物には、着色すること、スケッチパース・ダイアグラムの提出を義務づけているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。</p>	<p>授業評価 構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。</p>

<p>03358 築設計Ⅲ－a</p>	<p>計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設的设计課題に取り組む。 「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>	<p>ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。</p>	<p>授業評価 施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。</p>
<p>03344 卒業研究Ⅰ</p>	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。</p>	<p>授業評価 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らか関連するように努める。</p>
<p>03345 卒業研究Ⅱ</p>	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。</p>	<p>授業評価 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らか関連するように努める。</p>
<p>03383 都市計画学</p>	<p>本科目では、20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解する。 主に日本、及び欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習する。 また、こうした計画の技術・手法について、建築、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解する。そして現代の社会環境において都市計画が果たす役割や問題点を探り、建築設計・計画に都市計画・都市デザインの視点を持つことの重要性を学ぶ。</p>	<p>社会人が主体の通信教育では学生の地域での日常生活や仕事と学習内容の関連を理解することが重要である。 学習者になじみのある都市を取り上げ、都市計画学の基本を学ぶことで学習者の生活環境の形成のしくみが理解でき、他の科目も含めての学びと自らの経験とを接続し、建築や都市についてのより深い理解に繋がる手がかりが提供できていると考えられる。 また、近代都市計画の概要を学ぶことで健在の建築、都市の課題や位置づけについても理解が進むと考える。</p>	<p>授業評価 歴史については文献調査が、また、事例として取り上げた都市についてのレポートでは現地や資料調査が欠かせないが、Webでの資料収集のみにとどまる学生の少なくない。 充実できるよう工夫したい。</p>

<p>03399 都市計画学</p>	<p>本科目では、20 世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解する。 主に日本、及び欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習する。 また、こうした計画の技術・手法について、建築、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解する。そして現代の社会環境において都市計画が果たす役割や問題点を探り、建築設計・計画に都市計画・都市デザインの視点を持つことの重要性を学ぶ。なお、建築技術教育普及センターの判断により、建築士試験の分野が「その他」に変わった。</p>	<p>社会人が主体の通信教育では学生の地域での日常生活や仕事と学習内容の関連を理解することが重要である。 学習者になじみのある都市を取り上げ、都市計画学の基本を学ぶことで学習者の生活環境の形成のしくみが理解でき、他の科目も含めての学びと自らの経験とを接続し、建築や都市についてのより深い理解に繋がる手がかりが提供できていると考えられる。 また近代都市計画の概要を学ぶことで健在の建築、都市の課題や位置づけについても理解が進むと考える。</p>	<p>授業評価 歴史については文献調査が、また事例として取り上げた都市についてのレポートでは現地や資料調査が欠かせないが、Web での資料収集のみにとどまる学生の少なくない。 オープン教室、その他で調査方法についてもアドバイスを充実できるように工夫したい。</p>
<p>03351 建築造形 A</p>	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。 それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。 この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>この科目は学科創設当時からシラバスが維持されてきており、学科の方針を体現する基本的な科目である。シラバスにそって、図面を用いず複数の課題に対して造形で答えるという方針は一定であるが、授業の進め方は担当教員によりアレンジされ、その幅が広いことも特徴のひとつである。 また、授業内課題により、制作と並行して学生と教員との対話が続けられることもその特徴のひとつであり、個々のスキルに幅のある社会人がそれぞれの深度によって学習を進められることは評価できる内容であると考ええる。</p>	<p>授業評価 本科目は初学者の履修が多いが、調査によればこの科目での教員とのやり取りが自らの変容の出発点となる学生がいる点も注目される。取り組みやすい内容でありながら同時に深い気付きが得られるように、課題のバリエーションや進め方の工夫を進めて行きたい。</p>
<p>03354 建築設計 I - a</p>	<p>住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。 この科目では、「住まうための空間」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。 この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>この科目では、設計に先立ち将来の生活をイメージして文章化してもらい、それを設計シートとして学生間で交換することにより、互いに施主と設計者という二つの立場を学べるように工夫した点は評価できると考えている。 また、事前学習を活用し、現時点の設計スキルだけでなく、主に戦後の住宅史を概観しながら通時的な学習を可能としている点も、限られたスクーリングの機会を活かす上で有効と考える。</p>	<p>授業評価 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義することはもちろんであるが、どうしても nB+LDK のタイプに陥りがちな設計を、出発点に立ち戻って熟慮させるよう、さらに工夫していく予定である。</p>

<p>03356 建築設計Ⅱ-a</p>	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。 企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。 設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。 コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>規模的にはそれほど大きくない施設の設計を題材に、コンセプトの立案と造形とを連動させて考えるプログラムを用意した点、また事前課題を活用してコンセプトとはどのようなもので、どのような役割があるのかを理解させるように工夫している点は学習の効果が有効に繋がっていると考える。</p>	<p>授業評価 設計演習では建築設計 II-a あたりから学生が自主的に判断して成果物をまとめる割合が増え、スクーリングの時間内にまとめるハードルがあがってくる。 基本的な作図情報などは、今後 Web を活用したオンデマンドでの資料提供などでカバーしていきたいと考えている。</p>
<p>03358 建築設計Ⅲ-a</p>	<p>計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>	<p>公共的な施設の設計に取り組むということを実感するために、この科目ではまず最初は施設を利用する住民の立場で施設のあり方を考えるというステップを、ワークショップなどを活用しながら体験する。 次のステップでは発注者、そして建築家の立場になり、先のステップの成果を実現する設計に取り組む。 最後のプレゼンテーションのステップでは、発表者は設計者として、他の学生は地域住民として対話を行なうというアクティブラーニングでの学習を取り入れた点は評価できると考える。</p>	<p>授業評価 社会人は、住民の立場での検討は比較的スムーズに進められるが、その結果を形として示すステップで立ち止まることが多い。単に図面がまとめられるということ以上に、課題を造形で解決しプレゼンテーションするというステップを支援するしぐみを、継続している社会人の設計教育支援の研究成果からもフィードバックしていく予定である。</p>
<p>03344 卒業研究Ⅰ</p>	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。 成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>卒業研究は通信科目(卒業研究Ⅰ)と面接科目(卒業研究Ⅱ)の組み合わせで、約半年をかけて進められる。このうちオリエンテーションから発表までの間の研究を支える部分が通信科目(卒業研究Ⅰ)であり、通信科目ではあるが希望者にゼミ形式での指導を月1回程度開催している。 このゼミはオンラインでも参加可能であり、研究室に常時属さない社会人が研究を進めるしぐみとしては一定の成果が上がっていると考えている。</p>	<p>授業評価 現在、専任教員と非常勤講師がペアになり5~10名のゼミを運営しているが、専任がなかなか常時指導に入れない点は、今後研究成果でもあるWeb上のポートフォリオなどを活用してカバーしていきたいと考える。 また、設計に偏りがちな研究のバリエーションを増やし、選択する学生を増やしていくことも課題である。</p>
<p>03345 卒業研究Ⅱ</p>	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。 成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。 研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>卒業研究は通信科目(卒業研究Ⅰ)と面接科目(卒業研究Ⅱ)の組み合わせで、約半年をかけて進められる。このうちオリエンテーションと2回のプレゼンテーションの部分が面接科目(卒業研究Ⅱ)である。特に成果物の発表を2段階にした点は、他のゼミ、他の学生の状況確認も行なえる点で、成果物の質向上を図る上で一定の成果が上がっていると考えている。</p>	<p>授業評価 造形学部であることから、発表はパネルを使ったプレゼンテーション形式で行なっているが、今後卒業研究の幅を広げていく中で、別の評価形式も模索する必要があると考えている。</p>

<p>03376 構造力学 I</p>	<p>建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。 テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要があり、それを確かめるために行われるのが構造設計である。本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類、理解から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形そして基本的な不静定構造物の計算についても理解する。</p>	<p>面接科目である構造力学 I 演習と連携して学習が進められるように工夫している。 また、学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。 通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は e ラーニングサイト・通教オンライン・オープン教室(対面及びオンライン Zoom)で受付を行い丁寧に対応している。</p>	<p>レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているかなども今後確認していきたい。 また、e ラーニングやオンライン相談 (Zoom) などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。</p>
<p>03367 構造力学 I 演習</p>	<p>建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。 テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 「構造力学 I」の学習内容を補完する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身につける。</p>	<p>構造力学 I 演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。計算が苦手な学生もいるが、3 日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。 コロナ禍でオンデマンドコンテンツを配信し行った。対面と遠隔授業の両方の良さを知ることができた。対面と遠隔授業で様々な意見があるので、今後それらの意見を参考に、さらに分かりやすい授業内容を工夫していきたい。</p>	<p>対面授業と遠隔授業で様々な意見があった。対面授業では授業がとても分かりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。 授業を聞いていると何となく理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。どこで間違えているかをしっかりと確認できるように復習教材が必要と思われる。遠隔授業ではオンデマンドコンテンツを各自で視聴し、最終課題の提出とした。やはり最終課題の結果に差がみられるが、対面授業とはまた異なるよい面もあると感じた。さらにオンデマンドコンテンツの改善と充実をはかしていきたい。</p>
<p>03377 構造力学 II</p>	<p>実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目標とする。 不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。 また、構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。</p>	<p>構造力学 I に比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができてきているようである。 通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は e ラーニングサイト・通教オンライン・オープン教室(対面及びオンライン Zoom)で受付を行い丁寧に対応している。</p>	<p>テキストから学習はできているようであるが、構造力学 I のような学習指導書があればより理解が深まると思われる。 また、質疑についても e ラーニングやオンライン相談 (Zoom) などで質問しやすい機会を増やしたいと考えている。</p>

<p>03384 建築法規</p>	<p>建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。</p> <p>わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律が関わるが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組み、法令の理解をより深める。</p>	<p>学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。</p> <p>通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問はeラーニングサイト・通教オンライン・オープン教室(対面及びオンライン Zoom)で受付を行い丁寧に対応している。</p>	<p>レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。</p> <p>また、質疑についてもeラーニングやオンライン相談 (Zoom)などで質問しやすい機会を増やしたいと考えている。</p>
<p>03364 卒業研究 I</p>	<p>卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。</p> <p>成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。</p>	<p>専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の出展作品として優秀作品を輩出できている。</p> <p>通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールやeラーニングサイトなどでネット環境をうまく利用できている。</p> <p>コロナ禍で Zoom を活用したオンラインでのゼミや卒研審査会を行うことができ、かなりオンライン授業が進展できたと感じる。</p>	<p>約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られ、途中でリタイアする学生もいる。進捗状況の確認を増やし、途中であきらめることなく続けられるよう支援の強化をはかっていきたい。</p> <p>遠方の学生も多いので、引き続き Zoom などのオンラインミーティングも行い最終作品まで完成できるように指導方法を考えていく。</p>
<p>03365 卒業研究 II</p>	<p>卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。</p>	<p>専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の出展作品として優秀作品を輩出できている。</p> <p>通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールやeラーニングサイトなどでネット環境をうまく利用できている。</p> <p>コロナ禍で Zoom を活用したオンラインでのゼミや卒研審査会を行うことができ、かなりオンライン授業が進展できたと感じる。</p>	<p>約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られ、途中でリタイアする学生もいる。進捗状況の確認を増やし、途中であきらめることなく続けられるよう支援の強化をはかっていきたい。</p> <p>遠方の学生も多いので、引き続き Zoom などのオンラインミーティングも行い最終作品まで完成できるように指導方法を考えていく。</p>
<p>03289 リサーチ演習</p>	<p>建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探すことができる。</p> <p>量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けられることができる。</p> <p>目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。</p>	<p>比較的よくできたレポートが多かった。</p> <p>難易度の高い科目であるが、頼りになる参考文献も多いので学習の姿勢がそのままレポートに直結する科目でもあり、そのように指南することができた。</p>	<p>専門性の高い内容となっている為かよくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。何かしらの補助教材が必要かも知れない。</p>

03388 CAD I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行いました。事前学習として、お越し絵図の要領で組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものの、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	指定テキストが絶版となりましたのでテキストを独自のものを作成しeラーニングを通じて学生に配信しました。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思います。受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望まれます。
03389 CAD II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	使用するソフトを Revit に変えたことで授業の準備が昨年度末から年度当初に困難を極めたものの、なんとか実施にこぎつけることができました。抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。予習復習しやすいよう CAD 操作のオンデマンド教材を eラーニングに用意した。	CAD のバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390 CAD III (面接)	3次元 CAD による立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	使用するソフトを Revit に変えたことで授業の準備が昨年度末から年度当初に困難を極めたものの、なんとか実施にこぎつけることができました。3次元 CAD を用いた設計と表現の応用として CAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。また CAD I 及び CAD II のスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合で CAD II を受講できずに CAD III の受講に臨む学生の為に CAD I 及び CAD II の振り返りも触れていきながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなる eラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03344 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少し eラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においては Zoom の活用が顕著であった。

03345 卒業研究Ⅱ	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。 成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。 今年度においては Zoom の活用が顕著であった。
03371 建築計画学Ⅱ	本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。 また、複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみを反映し、地域の生活や文化との関りの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。	レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価する。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識する。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な、建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。 基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが、第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価する。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識する。
03388 CAD I	CAD とは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視さ、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年はComputer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。 CAD の基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題をこなしながら、CAD の操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができている。 受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出ていない。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。

<p>03388 CAD I</p>	<p>CAD とは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった 2 次元、3 次元の描画ツールである。1970 年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視さ、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年は Computer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。 CAD の基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを 2 次元 CAD でまとめていく。</p>	<p>設計課題をこなしながら、CAD の操作を学ぶスタイルにより、効率的に CAD の学習に取り組むことができている。 受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出していない。</p>	<p>学生が自力で CAD 操作を習得でき、授業後も CAD を活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。</p>
<p>03389 CAD II</p>	<p>「CAD I」で学んだ 2 次元 CAD は平面的な図面作成が主たる目的であるが、3 次元 CAD は模型を作るように立体的表現に適している。 2 次元 CAD の操作・作図方法との違いを確認しながら、3 次元 CAD ならではのモデリング(形を作る)、テクスチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な 3 次元 CAD の操作方法を修得する。</p>	<p>設計課題をこなしながら、CAD の操作を学ぶスタイルにより、効率的に CAD の学習に取り組むことができている。 受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出していない。</p>	<p>学生が自力で CAD 操作を習得でき、授業後も CAD を活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。</p>
<p>03390 CAD III</p>	<p>「CAD II」から更に内容を進展し、3 次元 CAD の建築デザインにおける様々な活用方法を、設計課題を通して理解する。 設計ツールとしてだけの 3 次元 CAD の活用ではなく、形態や空間を構成するための立体的表現ツールあるいは第三者へプレゼンテーションやコミュニケーションツールとしての活用も考え、建築デザイン行為においての 3 次元 CAD の利便性について理解する。</p>	<p>設計課題をこなしながら、CAD の操作を学ぶスタイルにより、効率的に CAD の学習に取り組むことができている。 受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧に指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出していない。</p>	<p>学生が自力で CAD 操作を習得でき、授業後も CAD を活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。</p>
<p>03351 建築造形 A</p>	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。 成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛け、受講生は全員合格し、2 名の学生が卒業研究展の出展者に選ばれた。</p>	<p>卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えることを促す。</p>

<p>03354 建築設計Ⅰ-a</p>	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	<p>ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛け、受講生は全員合格し、2名の学生が卒業研究展の出展者に選ばれた。</p>	<p>卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い。メーリングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えることを促す。</p>
<p>03356 建築設計Ⅱ-a</p>	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。 それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。 雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しくて室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。 この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>丁寧なヒアリング・指導を心掛け、かたちをつくる楽しさを感じてもらえるように努めている。受講生に不合格者は出ていない。</p>	<p>学生が造形のアイデアの勘所を理解できるよう、既存の建築作品の造形のプロセスを整理した教材を用意することで改善を試みる。</p>
<p>03358 建築設計Ⅲ-a</p>	<p>住宅は、そこで子供を育て、また、家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>数回の対面のエスキスを行い、学生の発想を發展させられるよう丁寧な指導を心掛けている。受講生に不合格者は出ていない。</p>	<p>建築の基礎的な表現方法を理解してもらうために、図面の描き方、模型の作り方を指導する。</p>

<p>03344 卒業研究 I</p>	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。 企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また、周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。 コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>数回の対面のエスキスを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けている。 受講生に不合格者は出ていない。</p>	<p>建築を3次的に検討する方法を理解してもらうために、スケッチ、模型、3D CAD を用いた検討方法を指導する。</p>
<p>03345 卒業研究 II</p>	<p>計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。 「建築設計 II-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>	<p>数回の対面のエスキスを行い、学生の発想を発展させられるよう丁寧な指導を心掛けている。 受講生に不合格者は出ていない。</p>	<p>敷地や、既存の建築作品のリサーチを行い、作品に適切にフィードバックを行うことができるよう、重点的に指導する。</p>
<p>03108 造形学原論</p>	<p>全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。 造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」このふたつである。 この科目では、基本的な構成原理を応用し実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し、組み合わせているのか、さらにはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。</p>	<p>当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。評点のための評価シートを作成することで、より具体的に評点の基準、根拠を伝えることができるようになりました。</p>	<p>昨年度、さらに学習成果を高めるため考察対象の作例を選択する上でのポイントをまとめた動画教材を追加することを検討したがまだ実現にいたっていない。この教材を制作することでより学習効果の高い授業にしていけることを検討しています。</p>

<p>03151 デッサン基礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描く力、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。 	<p>対象を観察し正確に再現的描画をするという一般的なデッサンの授業の方法に捉われることなく、築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考案した授業です。対象再現的な表現ではなく、ひとつは造形物を構想するためのデッサン、もうひとつは建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を実践しています。</p> <p>また、透視図法を理解させるため糸を使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としては効果の高い授業であると自負しています。</p> <p>コロナ禍により面接授業の代替措置として遠隔授業を行ったが、動画教材の活用などにより授業と同等の指導を行い、成果が得られたと考えます。</p>	<p>スクーリングなので教員が対面で直接課題について説明しながら授業を進めていますが、予習、復習に資するため、また台風などの災害による休講への対応策として自宅でも学習できる動画教材を作成しましたが、講評やディスカッションなどオンラインでの学習活動について設定し、充実させていくことを検討しています。</p>
<p>03152 立体造形基礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。 テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 自身の作品について発表できるようにする。 	<p>当該科目は創造的発想のプロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についてはまだ十分な指導ができていないと考えます。</p> <p>コロナ禍による代替の遠隔授業用にオンラインでの学習教材を制作しましたが、平時の授業においても予習、復習においても有効に活用できるものになったと考えます。</p>	<p>造形の良さを味わうのは感性によるところが多いものではありますが、感性と知識は協調するものですので「頭で理解する」部分の指導のための教材の工夫が必要と考えます。</p> <p>スクーリングなので教員が対面で直接課題について説明しながら授業を進めていますが、予習、復習に資するため、また、コロナ禍や台風などの災害による休講への対応策として自宅でも学習できるオンライン教材を作成しましたが、さらに講評やディスカッションなどオンラインでの学習活動について設定し、充実させていくことを検討しています。</p>

<p>03153 デザイン基礎</p>	<p>達成目標 造形作品構想の手法、原理とプロセスを理解し実践することができるようになる。 造形表現の基本的要素である色彩、形体、構成の表現力と理解し効果を考えながら平面および立体構成作品を制作することができる。 グリッドシステムを活用し効果的に要素をレイアウトすることができる。</p>	<p>授業では3日間で7つの課題に取り組みさせています。教としては多いのですが、前の課題で制作した作品ベースに次の課題に展開するというように第1課題から第2課題まで全て一連の流れとなってきました。このように関連を持ちながら展開していく課題は、発想のプロセスを理解させ創造性の高い活動とはどのようなものであるのかを理解させ、実体験させるために考案した授業課題ですが、高い効果を発揮していると自負しています。 コロナ禍の代替遠隔授業用に動画を中心としたオンライン教材を作成し、概ね対面授業と同等の指導を行うことができたと考えます。</p>	<p>スクーリング受講事前課題としていくつか動画教材を作成し取り組みさせていますが、さらに予習、復習に資するため、また台風などの災害による休講への対応策として授業ないでの学習活動を自宅でも学習できる動画教材を作成しましたが、講評やディスカッションなどオンラインでの学習活動について設定し、充実させていくことを検討しています。</p>
<p>03281 環境造形基礎 A</p>	<p>デッサンを学習する目的を理解する。 デッサンで使用する用具を理解する。 線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。 平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。 形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。</p>	<p>デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初學者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっています。 実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え通信教育部通信科目の中で最も早い 2014 年度から動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。 通教オンライン e ラーニングサイトでは単に教材の発信だけではなく、随時学生作品を参考作例としてアップしたり、添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行ってきました。</p>	<p>課題添削の中で得た知見を基に追加の動画教材を作成する必要を感じています。 また、添削にも動画を活用する方策を探っていくことを検討しています。</p>
<p>03282 環境造形基礎 B</p>	<p>美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことが出来る。</p>	<p>デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけはいまだに前担当者の実施した内容のままで担当している。 通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を政策させることは簡単ではありませんが、特に立体造形物や材料や道具のつか方など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考えます。 現段階でもそのあたりの指導には不足を感じています。</p>	<p>現在の内容はデザイン学科があった時の美術を学ぶ学生もしくは美術教員になる上での教材研究的な意味合いのある内容でしたが、現在当該科目を受けているのは建築学科の学生のみです。 他の私の担当科目同様建築学科学生にとってより有効な授業にすべく、引き続き内容の改定を検討していきます。</p>

<p>03283 環境色彩学</p>	<p>物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。 色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。 色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。</p>	<p>様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負しています。 当該科目では 2016 年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。 レポートについては、2021 年度から内容を充実させ、さらにオンラインでの提出ができるように設定しました。</p>	<p>随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えています。</p>
<p>05310 造形表現演習</p>	<p>保育園における様々な活動の様子を、その活動内容に応じた適切な描画表現し作品とするための、技法を習得し、考え方を理解することを目標とします。</p>	<p>当該科目は保育士受験対策としての内容も含んでおり、受講者はほとんど絵の経験がない者が多く、絵に苦手意識を持つ者も少なくありません。そうした学生に対し紙製のモデル人形を使ってポーズを学ばせるなど工夫を凝らした授業を展開しています。 当該授業は2日間の対面授業の後 11～16 コマに相当する部分をオンライン学習で行なっていますが、提出された作品に対し言葉だけの評ではなく、グラフィックソフトを使い画像を編集して指導している。これは対面の授業では困難、オンライン授業ならではの特性を生かした効果的な指導であると自負しています。 2020 年度、コロナ禍対策として全日程オンラインで学習できるように動画を教材としたオンライン教材を作成しました。解説を交え描くプロセスを動画で紹介する教材は平時の授業でも活用でき、また、学生の予習、復習にも資するものとなりました。</p>	<p>概ね適切な授業と考えており基本的は大きな改善は考えていませんが、よりわかりやすい授業にすべく、ここの学習内容の指導の細部についてひとつひとつ見直ししながら改善していこうと考えています。</p>
<p>U211003 コミュニケーション・スケッチ (A)</p>	<p>達成目標 ① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。</p>	<p>2019 年度に初めて担当した授業で、参考にするものもなく、正直暗中模索しながら進めてきました。 2021 年はコロナ禍により授業時間が 1 コマ 60 分となったが、2020 年度の遠隔授業用に作成した教材、資料を活用し限られた時間の中で効果的に指導が行えたと考えます。 毎回の学習ノートの添削も効率的に行えるよう工夫をしました。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.6、4.4、4.4、4.4、4.4) 回収率 78.9% 授業時間内で 80 人近い受講生の制作物をひとりひとり丁寧に確認するのは困難なため、全体で答え合わせができるような課題も取り入れていくことを検討しています。</p>

<p>U211004 コミュニケーション・スケッチ (B)</p>	<p>達成目標 ① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面上に書き表して説明することができる。</p>	<p>2019年度に初めて担当した授業で、参考にするものもなく、正直暗中模索しながら進めてきました。 また、日本語が得意ではない留学生も含む117人もの大勢の学生に一人で実技指導、90分の授業（内出席点呼と資料配布で20分以上消化）では、もし全員の作品を指導して回ろうとするなら、一人に20秒もかけることができません。 このような状況での授業は私自身はじめてのことであり、適切な授業運営や効果的な授業が行えたとは言えない授業、反省すべき点ばかりです。 2021年はコロナ禍により授業時間が1コマ60分となったが、2020年度の遠隔授業用に作成した教材、資料を活用し限られた時間の中で効果的に指導が行えたと考えます。 多くの学生の毎回の学習ノートへの添削を効率的に行えるよう工夫をしました。</p>	<p>授業評価 4.4 (4.5、4.3、4.3、4.5、4.4) 回収率 64.6% 授業時間内で80人近い受講生の制作物をひとりひとり丁寧に確認するのは困難なため、全体で答え合わせができるような課題も取り入れていくことを検討しています。</p>
---------------------------------------	--	--	--